

## 平成29年度第1回三重県総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日 時 平成29年4月26日（水）13:00～14:30
- 2 場 所 三重県勤労者福祉会館 6階 研修室
- 3 出席者 知事、教育長、教育委員4名
- 4 議 題
  - ・平成29年度における総合教育会議の運営方針について
  - ・教員の資質向上について
- 5 主な意見 ○：教育長、教育委員、●：知事

### <平成29年度における総合教育会議の運営方針について>

- 協議したいテーマを3つ提案する。1つめは「地方創生と学校」。学校の統廃合問題を中心に第3回の「地域の教育力の活用」の中で協議したい。2つめは「教員のワークライフバランス」。本日のテーマである「教員の資質向上」とも関連するが、過重負担の問題を、部活動のあり方等を踏まえ協議したい。3つめは「子どもの生活の現状」。例えば自然体験と道德意識の相関関係などを取り上げ、子どもを取り巻く環境について議論したい。
- 協議テーマとして希望するものが2つある。1つめは「特別支援教育のあり方」。福祉の部分も含めてしっかり議論したほうが良い。2つめは、「市町の総合教育会議について」である。市町の総合教育会議における議論や課題を把握し、県として果たすべき役割を議論することも重要であるとする。
- 教員の働く環境は、本日のテーマである「教員の資質向上」にも大きく関わってくる。教員のライフの部分も含め、働き方に目を向けていく必要がある。テーマとして考えられるのではないかと。
- 「地方創生と学校」の高校の部分については、昨年度教育委員会において「県立高等学校活性化計画」を策定する中で議論したので、小中学校の部分と、子どものリアルな生活の状況、市町の総合教育会議の議論の状況、県が各地域に作った教育支援事務所の状況を合わせて、第3回の「地域の教育力の活用」の中で議論するのも良い。特別支援教育は、昨年度議論しているので、有識者を招くなど、違った切り口で議論するのが良い。教員の働き方については、本日の「教員の資質向上」と併せて議論しても良いし、もう少し深めるために別途議論するのも良い。8月のいじめ対策、9月の学力向上など、スケジュール上動かさないテーマもあるが、それ以外はいいただいたテーマに柔軟に対応したい。

## <教員の資質向上について>

- 教員の資質向上というのは、子どもたちの「生き抜いていく力」を育むための資質を向上させることだと思うが、そのために、何が必要なのかを議論し学校現場の教員が共有することが大切である。学力テストの点数を上げることだけが、「生き抜いていく力」を育てていくことではなく、子どもたちが自分にどのような能力があり、どこを伸ばしていくべきか早いタイミングで気づきを与えられるような教育であってほしい。
- 子どもたちが多様化しているため、教員が熱意を持っていても、取り残される子どもたちもいる。教員から子どもたちへの一方向の関係ではなく、それぞれの子どもたちの細やかな所に気持ちを配り、双方向の関係を築くことのできる教員が子どもたちの求める姿ではないか。
- 教員の資質向上に関する指標については、どういう子どもを育てたいのかということがあって、そのために教員がどういう努力をしたのかを指標にして表すのが望ましい。

研修については、教室で教えるスキル、学級経営のノウハウに関する研修は充実していると思うが、コミュニティ・スクールなど地域や住民とどう関わるかという視点が研修の体系に欠けているので、市町の職員と教員が一緒に地域の課題や学校の役割を考えることができるような研修があっても良い。
- 教員は、子どもたちや保護者など自分とは異なる年代の人たちと付き合わなければならないが、人間関係構築力が問われるが、今の教員は学生時代にそうした力を身に付ける経験が不足している。また、教員の大量退職、大量採用の時代であり、学校文化が若い人に伝わらないという状況にもある。そのため、若い教員が人間関係構築力を身に付け、学校文化を伝えるためのシステムが必要で、それが今後作る教育委員会と県内大学等で構成する協議会での検討内容になると思う。教員として求める人物像の具体的な部分を議論する場を作って、養成・採用・研修の在り方を考えてほしい。
- 教員が、子どもたちのために何が必要で、どうして大切なのかをきちんと理解できる状況にあるのか、また、子どもたち一人ひとりに応じて教員が同じ目線で関わり合うということは重要な視点であると思うが、それらをどう指標化するのが課題であると考えている。
- 資料に記載された研修のメニューを見るとスキルのなものが多い。今注目されている非認知能力も教育には大事だと言われているにもかかわらず、そういう要素がほとんどなく、目的と手段が乖離しているように見える。スキルを身に付けることも当然大切であるが、何のために研修をやるのかということから、研修と環境づくりを考えないといけない。

目的に関して、グリットという「やり抜く力」が注目されている。自分の

ためだけではなく、誰かのため、社会のためになるという目的を持つ人ほどやり抜く力が高まっていくという研究成果もあるので、研修や教員の資質向上に向けた取組において、目的の作り方を説き起こしていかないといけない。

- 教員の資質向上のためには、研修以外の部分で、人間力を高める工夫も必要である。しかし、そのためには、授業や部活動でハードワークとされる教員の働き方も課題である。
- ワークではなくライフの部分で、非認知能力が生まれてくることもあるので、どういう環境を教員に作り出していくかが大事である。また、OJTの中でも達成感、意欲、協調性を身に付けていくことができるので、いかにOJTを充実していけるかも課題である。

以上